ページ・行	誤			正		
p. 245 表-5. 8. 1⑤	・基礎の応答塑性率の照査用設計水平震度 $K_{hcF}=c_D\cdot \underline{C_s}\cdot K_{hc0}$			・基礎の応答塑性率の照査用設計水平震度 $K_{hcF}=c_D\cdot\underline{C_z}\cdot K_{hc0}$		
	限定された損傷にとどめる			限定された損傷にとどめる		
	レベル 2 タイプ I (プレート境界型) タイプ II (内陸直下型)			レベル 2 タイプ I (プレート境界型) タイプ II (内陸直下型)		
	(図-6.9.12①、 $6.9.12②$ 参照) (基礎の照査) ・基礎の照査に用いる設計 水平震度 $K_{hp}=c_{dF}\frac{P_u}{W}$	橋脚の終局水平耐力に 大きな余裕があるか否 かの検討 ・基礎の耐力が橋脚耐力 に比べて小さい場合に おいて、基礎諸元の見 直し要否の判定で用い る。 $\left(K_{hc}=C_z\cdot C_s\cdot K_{hc0}\right)$ $Cs=1/\sqrt{2\mu_a-1}$	(基礎の応答塑性率の照査) ・基礎の応答塑性率の照査 用設計水平震度 $K_{hcF} = c_D \cdot \underline{C_s} \cdot K_{hc0}$ $\mu_{Fr} = 1/2\{1 + (K_{hcF}/K_{hyF})^2\} \le 4$ ・許容塑性率は 4 を目安と する。	(図-6.9.12①、 $6.9.12②$ 参照) (基礎の照査) ・基礎の照査に用いる設計 水平震度 $K_{hp}=c_{dF}\frac{P_u}{W}$	橋脚の終局水平耐力に 大きな余裕があるか否 かの検討 ・基礎の耐力が橋脚耐力 に比べて小さい場合に おいて、基礎諸元の見 直し要否の判定で用い る。 $K_{hc}=C_z\cdot C_s\cdot K_{hc0}$ $C_s=1/\sqrt{2\mu_a-1}$	(基礎の応答塑性率の照査) ・基礎の応答塑性率の照査 用設計水平震度 $K_{hcF} = c_D \cdot C_z \cdot K_{hc0}$ $\mu_{Fr} = 1/2\{1 + (K_{hcF}/K_{hyF})^2\} \le 4$ ・許容塑性率は 4 を目安と する。
	表下「*」補足説明* ・・・・、c_D:減衰定数別補正係数			・表下「*」補足説明 * ・・・・、c _D :減衰定数別補正係数、 <u>K_{kc}:レベル2地震動の設計水平震度(地震時保</u> 有水平耐力法)、C _z :地域別補正係数、C _s :構造物特性補正係数、μ _a :許容塑性率		